



〒892-0841 鹿兒島市照国町13-42 カトリック鹿兒島司教区 電話099(226)5100 振込口座02030-2-8359 編集発行 教区広報部 1部60円年間千共1100円

道標



Yet...Joy! Hope! Gratitude!

御父に誇りとされる生き方を

福者レオ七右衛門殉教祭で司教がメッセージ

十一月十三日(日)午後、薩摩の殉教者として称えられる福者レオ七右衛門の遺徳を偲び、その堅固な信仰に倣おうという「福者レオ七右衛門殉教祭」が川内教会で開かれた。参加者はミサで福者レオ七右衛門の取り次ぎを祈り、その後WYDに教区代表として参加した若者たちから大会の報告を受けた。映像を交えながらの大会報告では、大会中のカテケーシスで彼らが披露したレオの殉教をテーマにした寸劇も紹介され、その熱気ある演技とナレーションからあらためてレオの強い信仰を学んだ。

都城領主北郷加賀守時久が三男の三久を平佐の領主に任命したことに伴い、その家臣税所七右衛門敦朝が都城から川内に移り住んだのは一五九六年のこと。七右衛門は当時二十七歳だった。それから約十二年後の一六〇八年七月二十二日、七右衛門は京泊教会でオルファンネル神父から洗礼を受けた。しかし当時はキリシタン禁制下、領主の命令に背いた罪で、受洗から僅か四か月余りで斬首刑に処せられた。そんなレオ七右衛門の遺徳を偲ぶ殉教祭は、永年、川内教会の催しとして実施され、それまでの努力もレオ七右衛門列福へのきつかけとなっている。そして同殉教祭の主催が小教区から教区へと移ってからも、川内教会の信徒の熱意と活躍に支えられている催しであることに違いない。



福者レオ七右衛門の遺徳を偲ぶ殉教祭の様子

ミサ中説教した郡山司教は、「父である神は、その子どもである私たちがキリストに従う生き方をしたとき、私たち人間が親の思いにかなう生き方をしている自分の子どもをそう思うように、私たちを誇りとして下さる。レオ七右衛門の生き方はまさに神の誇りとなった。私たちも困難に直面したとき、父に誇りとされる生き方を選択することができると心に心をみがいていきたい」とメッセージを送った。

ミサ後にあったWYDに教区の代表として参加した石田望神父と若者たちによる報告は、異国の地での体験を通して若者たちの心に輝き始めた信仰を参加者にも伝え、教区の未来にも明るさを感じさせ、今年の殉教祭をこれまでのものとは一味違うものとした。若者たちからのWYDの報告を受けた後は、京泊教会跡地へ足を運び、そこで祈りをささげた。また今年、レオが斬首された平佐城跡付近にも足を運び、当時のレオの心を偲んだ。

新風

私たちは、主から愛されたいことを強く意識しなければならぬ。水のようにならぬように、常に注がれるその愛を意識して生きる。今、私たちに求められている。ある信徒が私に次のように語ってくれた。

「私は、常に次のように祈ります。『私が、悲しみ、喜びのときも、愛のときも、主の愛から離れさせないように。そして常に主を愛せますように。』」

主に愛されて

先日、開催された司教評議会で「祈り」の大切さが強調された。逆に言うところ、祈りが不足していることが浮き彫りになった。私たちが祈りの時間を意識して生きる。今、私たちに求められている。ある信徒が私に次のように語ってくれた。

「私は、常に次のように祈ります。『私が、悲しみ、喜びのときも、愛のときも、主の愛から離れさせないように。そして常に主を愛せますように。』」

来年一月韓国人神学生二人が助祭に 韓国での叙階式参列者を募集

教区巡礼委員会(寝占教区委員長)は、来年一月十日(火)仁川カトリック大学で助祭に上げられる二人の韓国籍鹿兒島教区神学生の叙階式に参列する巡礼団を募集している。助祭の聖位に上げられるのは、アントニオ・ジョン・ポフ・チョン神学生とドミニゴ・ソン・ジン・ウオク

ち合いと九州・沖縄内で移動がある場合の協力体制の必要性が確認された。新しい審議事項として、東日本大震災復興支援の話し合いがなされ、長崎教会管区担当司教として浜口末男大分司教が任命された。また久慈教会(岩手県)への司祭派遣については、来年の三月までは伊東成晃神父(福岡教区)がその任にあたり、二〇一二年度は長崎大司教区から、その翌年度は沖縄、大分、鹿兒島から一人を派遣することと

なった。また岩手県大槌町のベニスについては、その殆どが完成しており、間もなくボランティアの受け入れが可能とのことで、十二月十三日にその開所式を行うこととした。

最後に二〇一二年十月に「キリスト教信仰を伝えるための新しい福音宣教」をテーマにしたシノドス第十三回通常総会が開催されるが、それを受けて長崎教会管区司祭大会を二〇一三年度中に開催したいとした。

司教評議会

十一月七日(月)教区本部で司教評議会があった。議題は①教区で同じ意向さげ「ノベナの祈り」について ②来年の敬老の日に向けて ③小教区レポーターについて ④東日本大震災復興のための大槌ベニスについてであった。

今回特に話し合われたのはノベナの祈りについてで、九日間、教区を挙げて同じ意向で集中して祈ることが時宜にかなったことと評議員たちは賛同し、今後その実施方法について検討することとした。

修道会便り

聖血礼拝会

ある秋の日の午後、教区本部を訪ねてくれた面々は、溝辺にある聖血礼拝修道会聖ヨセフ修道院の七人のシスターたち。観想修道会という性格上からの想像「寡黙な人たち」というイメージを見事に粉砕してくる明るく朗らかな皆さんたちだった。その中には、十月二十日(木)に同修道院において着衣式をすませたばかりのファン・タ

イ・ホアさん(ベトナム)と獅子目真穂さん(鴨池)の元気な姿もあった。

移転新築工事始まる 聖園老人ホーム

社会福祉法人善き牧者会(竹山昭理事長)「聖園老人ホーム」では、十月十九日(水)移転新築工事が始まりました。工事を前に起工式があった。来年六月末の完成を目指す同ホームの移転先は阿久根市西目。敷地面積は四一七・一㎡、建物の延べ面積は二六六・〇㎡。建設工事は鴻池組が請け負うことになっている。

てくる三泊四日の旅。叙階式の前日にはソウルのカテドラルでミサをささげることになっている。

費用は空港税、航空保険料、燃料サーチャージを含め六万六千八百円。催行最低人員は十人で、申込み締切は十二月八日となっている。申込み及び問合せは教区巡礼委員会の徳永善博委員(☎〇九九―二〇六一七二二一 携帯〇九〇―二六六九―〇四二二三)・教区本部(☎〇九九―二二六―一五一一〇)まで。

キリシタンの歴史

溝辺教会主任司祭 坂本 進

2キリシタンの伝来とキリシタンの世紀

四頁

日本人の間に、キリスト教が影響を与えるようになったのは、やはりサビエル神父の渡来以後といえましょう。では、キリシタンの教えの何が、日本人の心と頭を捉え、キリシタンにさせていったのでしょうか。

イエズス会の神学者ペテロ・ネメシエギ神父は、日本にキリシタンの教えが浸透していったゆえんと、これからの日本における宣教の方向性について、こう述べておられます。

「日本には古来より、仏教、儒教、神道などの優れた教えが存在していましたが、しかし、これらの教えには封鎖的なものが見られます。団体の内部においては、温かい連帯感が育てられています。団体外にある人々に対しては無関心であり、逆に競争心をいだき、敵対心をも抱いていました」

「また、日本の諸共同体には、共同体に属するメンバーが個性を生かすことを、あまり歓迎しないところが見受けられます。キリスト教は、各人間が直接に神によってかけがえのないユニークなものとして創造され、自分のユニークな才能を発揮するように召されているというところを、協調していません」

「さらに、儒教に由来する『天』『天命』の教えには、絶対的な存在の根拠を示

す倫理的基準が欠けているのではないのでしょうか。

日本には、従来の日本固有の共同体精神に、上述した三つのキリスト教的要素を加えていくことが求められているのではないのでしょうか」(P・ネメシエギ「日本の精神風土とキリスト教」『宗教の心』みくに書房 一九八四年 二六三〜

3日本人がキリシタンになった理由

この時代に、日本人がキリシタンになった理由については、以下の諸点が挙げられています。

まず、第一は、九州の諸大名(大村純忠、有馬晴信、大友宗麟など)が、貿易の促進及び武力強化をはかる武器購入のため、キリシタン国との交易をはからんとし、その仲介にあたるキリシタン宣教師を保護し、キリシタン宣教を許可したことが挙げられます。

諸大名が自国の富国強兵をはかるため、キリシタンを保護したことは明白ですが、他方、キリシタンの教えそのものの中に、精神を浄化させる内面的なものを見出し、いたことも、事実であったのです。

織田信長が、政治勢力であった本願寺の仏教勢力を打破させる対抗馬として、キリシタン宣教師を保護したことは、よく知られています。政治的方策としてだけでなく、キリシタンの

キリスト教の教えが、ザビエル神父をはじめとするイエズス会の神父たちによって日本にもたらされてから、五十年の間のうちに、信徒数は著しく増大しました。関ヶ原の合戦が行われた慶長五年(一六〇〇年)には、七十五万から百万の信徒を数えており、当時の日本の人口が二千万であっ

たことを思うと、人口の五割が、キリシタンであったという事になります。現在(二〇一一年)、人口一億二千万の人口比の約、百二十万がキリシタン(カトリック)／プロテスタント(総計)となつていて、対比させると、四百年前、いかにキリシタンが発展・隆盛していたかをうかがい知ることが出来るではありませんか。

なぜ、当時、かくも多く日本人が、キリシタンの教えに魅かれ、キリシタンになっていったのでしょうか。

ては、世を生き抜いていくことが出来ないからでもありません。世そのものは濁っており、清いとはいえませぬ。人は、ただ清らかな心を持つていから、善意を以て生か抜いていくことはできないのです。しかし、人の心の中には、それでも、清くありたいという心があります。

キリシタンになった大名のうち、特にユースト高山右近(一五五二〜一六一四)は、高潔な人格と清らかなものをキリシタンの教えの中に、見出し、いた大名として、よく知られています。一五八七(天正十五)年、権力者豊臣秀吉からこの世の権力と信仰のどちらを選ばかと思われ、右近は潔く信仰を選び、右近は大名の地位を捨てたのです。私たちの心の中にも、たとえ、自分が汚れ多き者であったとしても、聖なるもの、清らかなものを求めたいと望む気持ちがありません。それは、救いではないのでしょうか。

人は、みな濁ったものを持ち合わせているといえましよう。そうでなければ、世を生き抜いていくことが出来ません。世そのものは濁っており、清いとはいえませぬ。人は、ただ清らかな心を持つていから、善意を以て生か抜いていくことはできないのです。しかし、人の心の中には、それでも、清くありたいという心があります。

せん。イエズス会に入会した修道士不干斎ハビヤン(一五六五頃〜一六二二)も、その一人です。彼は、後に理論的理由から棄教しましたが、棄教してからも求道の生き方を貫きました。伝道文書『妙貞問答』、排キリシタン文書『破提字子』などを著しています。

また、戦国時代の多くの女性たちに、キリシタンの教えは、共感を呼び起こしました。男の政略の道具でしかなかった戦国時代の武士の女性たちが、一夫一婦制を採るキリシタンの教えの中に、真に女性を尊重する生き方を見出し、出したことは、必然的帰結であったに違いないと見られます。

細川ガラシア、京極マリア、小西行長の妻ジュスタ、行長の娘・小西マリア、行長の養女・おたあジュリア、行長の娘・カタリナ永俊尼、高山右近の妻ジュスタなどを挙げることが出来ます。前田利家の娘で秀吉の養

女となり、関ヶ原の戦いで敗軍の将となる宇喜多秀家に嫁いだ豪姫も、高山右近の導きでキリシタンになっていきます。伊達政宗の愛娘・五六八姫も、キリシタンです。秀吉の側室になることを断って、父・千利休を死に至らしめる一つの原因を作ったといわれる娘・お吟も、右近の影響で父・利休と共に入信していたともいわれています(確証はありません)。

また、戦国時代の武士たちは、主君がキリシタンになったならば自分もなること、主君への忠節を尽くす倫理であると、心していたところが見られます。

ゆえに、主君がキリシタンを棄教すれば、家臣も棄教したのです。しかし、主君がキリシタンを棄教しても、キリシタンを棄教しても、キリシタンの教えの中にも、主従の倫理を越えたものを見出し、いたのです。

ね。仙台の伊達政宗が、徳川幕府のキリシタン禁教政策に屈しても、なお、信仰を守り続けた後藤寿庵(一六二三年消息を絶つ)は、この証人です。仙台教区では、寿庵を記念して毎年寿庵殉教祭が開かれ、その信仰の遺徳を讃えています。

九州において、禁教令により多くのキリシタン大名が棄教したにもかかわらず、その臣下たちが棄教せず殉教したことは、みなさんよくご存じの通りです。薩摩では、レオ七右衛門、カタリナ永俊尼がよく知られています。

*本シリーズは、日本のキリシタンについて紹介しています。同時に、日本のキリスト教の歴史も併せて解説しております。太平洋戦争中における弾圧に至るまで、ご紹介いたしますので、ご期待くださいませ。

そ、キリシタンの教えが伝来された頃、知識人・仏僧たちの間に、腐敗した仏教に嫌気がさし、キリシタンへ改宗する者が続出したのも、推してはかるべしでしょうか。彼は、キリシタンの教えの中に、内面を刷新・浄化させるものを見出したに違いありません。

そ、キリシタンの教えが伝来された頃、知識人・仏僧たちの間に、腐敗した仏教に嫌気がさし、キリシタンへ改宗する者が続出したのも、推してはかるべしでしょうか。彼は、キリシタンの教えの中に、内面を刷新・浄化させるものを見出したに違いありません。

そ、キリシタンの教えが伝来された頃、知識人・仏僧たちの間に、腐敗した仏教に嫌気がさし、キリシタンへ改宗する者が続出したのも、推してはかるべしでしょうか。彼は、キリシタンの教えの中に、内面を刷新・浄化させるものを見出したに違いありません。

+KABAYAN SEKSIYON+ "PAGBUBUO"

Ang doktrinang Katoliko na nagsasaad ng katotohanan ni Kristo, na nilalagom sa Kredo, ay naipakita nang kaugnay, ayon sa kalikasan nito, sa pampublikong pagsamba at pasasalamat sa Diyos. Anumang panalangin at pagsamba, kung hindi matibay na nakasalalay sa katotohanan ni Kristo, ay mauwi lamang sa maraming kabanalan, ritwalismo at maging mapamahing pagsamba sa diyos-Diyosan. Sa kabilang dako naman, kung walang tapat at makatotohanang panalangin at pagsamba, marami ang humahantong sa "paniniwala sa kasinungalingan sapagkat hindi nila tinanggap at inibig ang katotohanan upang maligtas." (2 Tes 2:11-10).

Ang malalim na ugnayan sa pagitan ng katotohanang aral tungkol kay Kristo at ng moral na buhay ng mga Kristiyano ay maayos na pinag-diinan ni San Pablo. Pinag-hahambing niya ang pamumuhay ng mga pagano na sarado ang isipan at nalalabuang pang-unawa sa mga taga-Efeso na tinuruan ng katotohanan na walang iba kundi si Jesus na:

"Iwan na ninyo ang dating pamumuhay. Hubarin na ninyo ang dating pagkatao, na napapahamak dahil sa masasamang pita. Magbago na kayo ng diwa at pag-iisip; at ang dapat makita sa inyo y ang bagong pagkatao na nilikhang kalarawan ng Diyos, kalarawan ng kanyang katuwiran at kabanalan." (Ef 4:22-24).

Isang halimbawa ng pagbubuong ito mula sa Kasulatan ay madaling malikha upang: "Sumasampalataya ka sa Panginoong Jesus" (Gw 16:31) na ang ibig ipakahulugan ay "sinusunod natin ang kanyang mg autos" (1Jn 2:3), at manalangin sa pamamagitan Niya, kasama Niya at sa Kanya" (Panalanging Eukaristiko), sa pag-uulit ng pagsamo ng mga sinaunang Kristiyano na "Sana y dumating ka na, Panginoong Jesus" (Pah 22:20).

Kaya pwedeng tayong magnilay-nilay ng ilang mga tanong at mga sagot. **Saan matatagpuan ng mga Katoliko ang mga pangunahing katotohanan ng kanilang buhay?** Ang doktrinang Katoliko ang nagpapahayag kung paanong matatagpuan natin ang dahilan kung sino tayo, bakit at papaano tayo mabubuhay at kung saan ang ating huling hantungan kay Jesu-Kristo at sa Espiritu Santo, na pawang sinugo ng ating Ama sa Simbahan. **Hindi ba sapat na mag-ibigan na lamang, nang hindi na kinakailangang malaman pa ang doktrinang Katoliko?** Hindi, kailangan nating malaman ang doktrinang Katoliko upang: mabatid natin kung papaanong magmahal nang wagas bilang Kristiyano; magbigay-liwanag sa ating paglilingkod at pagsamba bilang mga Katoliko; umunlad tayo sa ating ugnayan kay Kristo at sa bawat isa upang maitaguyod ang Kristiyanong sambayanan. ("Ngayong malinis na kayo dahil sa inyong pagsunod sa katotohanan, anupat naghahari na sa inyo ang tapat na pag-iibigan bilang magkakapatid, nawa y maging maalab at taos sa puso ang inyong pagmamahalan." (1Ped 1:22))

Katekismo-Pilipinong Katoliko (Fr. Dino Orolfo)

シスターとふれ合った一日

大熊小教区で「召命の日の集い」



祭壇前に勢ぞろいした大熊教会の希望たち

大熊小教区(主任司祭・アン神父)では、十月二十三日(日)午前九時、半から同小教区の巡回教会の一つ浦上教会で「召命の日の集い」を開催した。今回が三回目となる同集いのテーマは「来て見なさい。そうすれば分かる」で、約三十人の子どもたちが召命について考える機会を持った。九時半のミサで始められた集いで、子どもたちにメッセージを告げるために招かれたのは「イエスのカリタス修道女会」志願院のコンチエッタ山田院長と同会の

シスターと志願者たち。気さくで明るいシスターたちとのふれ合いで、子どもたちは召命について考えることが決まると、神の呼びかけにシスターにこたえることを学んだようだった。講話や質疑応答で修道者の生活と生きがいについて学んだ子どもたちは、大熊小教区が「生きたロザリオ」と命名しているロウソクを持って祈り、それを一

人ずつ奉納する祈りをささげた。昼食後はビデオ観賞を行いあらためて召命について考える機会を持ち、その後シスターたちからのプレゼントを受け取り大喜びだった。集まった子どもの中には、早速「シスターになりたい」と宣言する子どももいるなど、小教区にとっても明るく楽しい一日となった。(報告・平 三國)

生前のよき業に…と神に祈る

カトリック唐湊墓地でミサ

鹿兒島市のカトリック唐湊墓地で十一月五日(土)午前十時からミサがあり、四十人を超える信徒が郡山司教らとともにこれま

で亡くなった人たちのために祈りをささげた。現在、約四百基の墓石がある同墓地の奥には鹿兒島で働いた教区司祭たちが眠る司祭墓地がある。この司祭墓地には、カトリック信者の墓を見守るようにキリスト像が立っているが、これまで祭壇はなくミサをささげる際には材木を組み合わせた仮祭壇で間に合わせていた。そのことを残念に思っていた司教は、この夏、石製の祭壇を設置、この日



のミサをお披露目の機会とした。

司教執務室便り

祈りの師にならう

ザビエル様が、日本に來られる丁度一年前、すべての信者のために書かれた祈りの方法が書簡集に収められています。詳細は省きますが、書き出しに興味を覚えました。「朝目覚めたらすぐに、他の何よりも先に神に嘉せられる三つのことをしなければなりません。」(聖フランシスコ・ザビエル全書簡 河野純徳訳 書簡六六)「着替える前に、洗面の前に」ということでしょうか。これは、私が推奨している「起きぬけの祈りのことではないか」と思ったのです。CLCの黙想会で教えてもらったのが始まりだったと思うのですが…

勢いよくベッドから飛び起きた毎日が懐かしく思い出されます。起き抜けの祈りはこうして、新しい一日を下さった神様に対する私の最初の挨拶であり、少し大げさですが、一日のすべてを御父に奉獻する聖時間となっています。ザビエル様にならって、少し説明したいと思えます。「御父、イエス、聖霊おはようございませう。今日もあなたがたにたえられますように。」これが起きぬけの祈りの基本形です。これだけでもいいのですが、二つの祈りの間に、その日予想されるすべてのこと、出会うであろう人々のことなどすべてのことに祝福を願います。そして「今日のすべてを通してあなたがたにたえられますように」と結びます。こうした神様との朝のお話が一日を潤いのあるものにしてくれるはずですよ。夜は一日のすべてを感謝して床につきます。祈りの教区となるためにも是非お勧めします。



今月三日はザビエル様がサンフランシスコで帰天された日です。祈りの人でもあった聖師にならって御降誕のよき準備ができるよう祈ります。

盛大にマリア祭

和光園教会

和光園教会(大熊小教区)で、十月三十日(日)マリア祭が行われ、約五十人の信徒が集まり、電飾や花で飾られた教会自慢のルルドの前で、聖母マリアに祈りをささげた。午後四時半から始められたマリア祭では、自動ドアに替えられた教会の玄関入口のほか、老朽化から架け替えられた道路から教会敷地に



12月の会と催し

- 3日(土) 聖フランシスコ・ザビエル司祭
- 3日(土) 小川靖忠神父叙階記念日(一九七二年)
- 4日(日) 中野裕明神父、丸野六雄神父、浜崎真実神父霊名待降節第二主日
- 4日(日) 宣教地司祭育成の日(献金)
- 7日(水) ヴィンデンマン神父命日(二〇〇六年)
- 8日(木) 無原罪の聖マリア
- 10日(土) 宣教学校「公教要理」・教区本部・13時30分〜15時30分
- 11日(日) 待降節第三主日
- 11日(日) 市民クリスマス・ザビエル教会・14時
- 11日(日) 徳之島キリスト教合同クリスマス会・徳之島町生涯学習センター・15時
- 18日(日) 待降節第四主日
- 18日(日) 大野和夫神父司祭叙階五十周年(金祝)ミサ・名瀬聖心教会・9時
- 19日(月) 有馬信茂神父命日(二〇〇七年)
- 19日(月) ホリスティック黙想会「モーセの癒しと信仰」・ザビエル教会一階ホール・10時〜12時・五百円
- 20日(火) 大野和夫神父叙階記念日(一九六一年)
- 20日(火) ホリスティックスピリチュアル講座「モーセの癒しと信仰」・ザビエル教会集会室・18時30分〜20時30分・五百円
- 23日(金) 松永正男神父叙階記念日(一九六九年)
- 25日(日) 主の降誕
- 26日(月) 聖ステファノ殉教者
- 27日(火) 聖ヨハネ使徒福音記者
- 27日(火) 田邊徹神父、寝占敦之神父、末吉卓也神父、山口好信神父、ダウン神父霊名
- 28日(水) 幼子殉教者
- 30日(金) 教区本部仕事納め・仕事始めは1月4日 聖家族

ア祭があった。この催しはイエスのカリタス修道女会のシスターの提案で三十三年前に始められたもので、以後、教会の催しとして定着し続けられている。今年のテーマは「お祈り下さい、マリアさま」で、五十人の信徒が集まり、電飾や花で飾られた教会自慢のルルドの前で、聖母マリアに祈りをささげた。午後四時半から始められたマリア祭では、自動ドアに替えられた教会の玄関入口のほか、老朽化から架け替えられた道路から教会敷地に

「短信」

▼青年たちの伊集院巡礼 十月二日(日) 青年たちによる伊集院一宇治城跡までの徒歩巡礼があった。これは聖フランシスコ・ザビエルが藩主島津貴久に布教

の許可を得るために同地に赴いたのを記念し、青年たちの呼びかけで続けられているもの。この日も青年とその呼びかけにこたえた数人の勇者たちが二十数キロの道のりをロザリオの祈りをささげながら歩き、一宇治城跡でミサをささげた。(四面に關連記事)

▼玉里で堅信式

十一月二十日(日) 玉里教会(ロベルト神父)で堅信式があり、郡山司教から中高生七人が堅信の秘跡を授かった。

みことばシリーズ 恐竜のゆくえ

終身助祭 石神 秀人

私には小学校四年生になる息子がいます。最近、教会からの帰り道の車内で「どうして神さまは恐竜をつくったの?」と私に尋ねてきました。恐竜のことを話題にしていたからです。子どもというものは遠慮なく何でも聞きたがりですが、さすがにすぐに回答することはできませんでした。

この質問の意味の中には「今は恐竜なんていない」「絶滅した」という意味も当然含まれていると私なりに考えました。それと同時に私にとっても、子どもと一緒に考えさせられる質問となりました。お決まり的に言えば、恐竜絶滅の理由

まだから、すべて理由はあるけれど、それは人間の業を超えた出来事の一部だから、知ることができないんだよ。でも一つ言えることは、神さまは人間を特別の存在として神さまの似姿としてお創りになり、一番愛されているんだよ」と答えました。

祈りをテーマにした

伊集院巡礼を終えて

谷山教会 岩崎 信幸

十月二日に、毎年恒例の伊集院巡礼が青年会主催のもとで行われました。残念ながら今年参加者の人数が例年より少なかったのですが、そのようなことはまったく感じられないほどに素晴らしいものとなりました。今回のテーマは「祈り」

多少焦点がずれているような感じでしたが、それ以上子どもからの質問はありませんでした。この回答がプラスと出るかマイナスになるか、今後の我が子の信仰が試されます。やはり必要なのは我が子のためにも祈りですね。

文芸

俳句

吉野教会 徳永ノブ子
秋天にお告げの鐘の響く街
ありがたき重なる齡敬老日

純心学園 山頭 信子
秋の風葛の葉かえすルルド坂
吾亦紅生けてロザリオアベ・マリア

霧島市 政 ノブ子
殉教祭繋ぐ歴史や菊香る

愛光園 春山マリ子
秋の空人の瞳は青いもの
美男女結婚祝う秋の空

鹿兒島純心 川上 和
露時雨小池にひらりもみじ舞う

出水市 沖 弘子
行秋の園のバザーで沸き立てり

短歌

鴨池教会 前田 儀子
原爆のどぐろのドームに秋陽ゆれ胸に刷り込む永久の平和を

さびしき窪みとなして眸なきただ青色

に目を塗るモジリアニ

愛光園 春山マリ子
誰れだつて静かな日々を送ろうと日毎の
努力積み重ねゆく

奄美市 林 常広
忘れらぬ思い出の方言の鹿兒島弁が我
の故郷

鹿兒島純心 川上 和
暁につまぐる祈りロザリオのナザレのみ
業暮らしの光

詩 待降節

始良市 S・K

大隅半島の上から
トマトのような太陽がのぼった
真つ赤な太陽は黄金色に変わった
そして放たれる光は湾を渡って
家のガラス窓にもどいた
ガラス窓の霜がとけて
ダイヤモンドに輝いた
アッパ父よ!アヴェマリア!
待降節の訪れよ!

マリア山荘主催 日帰り黙想会

1月22日(日) ミサ後
「西郷隆盛とキリスト教」
講師: 高柳毅先生 (西郷
南洲顕彰館館長)

わらべ歌の中の中村長八神父

大笠利教会 稲 牛憲

八十五歳になる私が八十
年前、友だちと一緒に歌っ
ていた歌に次のわらべ歌が
あります。

「コーバク、コーバク、
ミシユコーバク、コーバク、
ナンニヤ、油ミシユ、中村
神父、茶ミシヨレ、茶バミ
シヨチ、キバテイモレ」
注)「コーバク」茶請味
噌を小出しする器。「コー

このわらべ歌を口ずさむ
と昔の田舎の閑静な風景が
よみがえります。
ガジュマルの木の下で
おばさんたちが二三人集
まってお茶を飲んでいま
す。そこへ子どもたちをた
くさん従えた中村神父様が

られた方々の冥福を祈りま
した。
当日の朝は少し肌寒く感
じましたが、歩いていくう
ちに気温も高くなってきた
ので、Tシャツ一枚で快適
に歩きました。私は今年初
めて伊集院巡礼に参加した
のですが、話をしながら、
あるいは各自で祈りをささ

スーさんの「やさしい言葉」⑦ 待降節にあたって

当たり前のことのように
思えていたことが当たり前
でなくなるとき…。そのと
きにこそ人間は深い知識を
得るものです。今の科学の発
展を紐解けば、こうした実例
は枚挙に暇がないでしょう。
さて、私たちは毎年、主の
御降誕をお祝いします。で
は、なぜ、イエス様の誕生日
が約二千年間にわたって世
界中でお祝いされてきたの
でしょうか。また、私たちは
単なる習慣やお祭りとして
クリスマスを毎年お祝いし
ているのでしょうか。この
ことをちよつと考えてみましょ
う。もしかしたら、信仰が心の奥底にスツと染み入る
きっかけとなるかもしれませ
ん。
私たちが誕生日をお祝いするの
は、当たり前ですが、その人が
生きています。また「東日本大震
災被災者のための祈り」も同
時に唱えることで、被災者
の方々の心の平和と亡くな
るとは決してありません。では、イエス様の

場合はどうでしょう。確かに、ベツレヘム
で生まれたイエス様は十字架に付けられ
て、死に、葬られました。しかし、三日目
に死者のうちから復活されたのです。つま
り、イエス様は今もいつも生きておられる
ことから私たちは毎年毎年、これから先も
ずっとイエス様の誕生をお祝いするので
す。ここにこそ御降誕を祝う意味があるの
です。実に、「神が人とされた」という神
秘と「イエス様の復活」という神秘的な現
れでもあるのです。
待降節が始まると当然のことながら、聖
書の朗読箇所もイエス様の誕生に関する
お話が中心になります。しかし、イエス様
の御復活、即ち、神が与えてくださる永遠
の命の約束があるからこそ、私たちは御降
誕を心からお祝いすることができるとい
ます。最後に大切なことをまとめます。イエ
ス様は今も生きておられることから御降
誕をお祝いするのです。だからこそ、今年
の待降節は受肉の神秘と復活の神秘とい
う二つに思いを巡らしながら過ごしてみ
ましょう。

げながら歩くことは本当に
楽しく、意義深いものとな
りました。
来年は各教会でのお知ら
せを早めの時期から行い、
より多くの参加者を募り、
ミサや祈りにおいても内容
を一層深めたものにできる
ようにしていきたいと思ひ
ます。

通りかかります。おばさん
の一人が「茶をミシヨチ、
キバテイモレ」と声をかけ
ます。この短いわらべ歌の
中に島人のやさしさ、中村
長八神父様の活動の一コマ
を思い浮かべることができる
のです。
奄美大島の中でただ一つ
カトリック教会のない私の
故郷宇検村に神の教えが広
まるように、中村神父の列
福を求め祈りの中にこの
歌を入れて私なりに祈って
います。



へえ、日本の教会は
今こうなんだ・・・
ザビエル

カトリック新聞は、日本のカトリック教
会唯一の週刊全国紙です。
全国、海外の読者様の手元へ毎週送
りいたします。
また、全国のサンパウロ・女子パウロ会
書店でも販売しております。

〒135-8585 東京都江東区洲元2-10-10 日本カトリック会館5階 カトリック新聞社
TEL 03-5632-4432 FAX 03-5632-7030 Email kodokufc@jpcn.com

カトリック新聞
1部本体価格150円(税・送料別)
購読料金(前納、税・送料込)
半年4740円・1年9480円

見本紙贈呈いたします